

(45) 那須茶臼岳(なすちゃうすだけ)の硫黄

那須茶臼岳は小山から遠くない。何度も登山をしており、硫黄があちこちにあることは知っていた。鉱山探査に興味を持ち始めたので、参考文献(1)も手引きに、茶臼岳に探査に行った。小山から茶臼岳の登山口までは、車で約2時間、朝出かけて日帰りで済む。硫黄を採集できる場所は茶臼岳の西側の登山道沿いである。そこへは那須ロープウェイを利用すると手取り早い。が、開山期間の休日は乗り口隣の駐車場は直ぐに満車となる。更に上の駐車場は何時でも余裕がありそうである。ここから徒歩で、稜線上にある峰の茶屋を目指す。1時間ほどの行程である。天気がよければ、爽快な山行である。峰の茶屋から茶臼岳の西側斜面を通過し、牛ヶ首のルートをとる。峠の茶屋から南下していくと、直ぐに頂上と牛ヶ首への分岐点に達する。牛ヶ首コースに入る。西側斜面のあちこちで噴煙が上がっている(写真1, 2)。この辺りから、登山道回り一帯に硫黄の小片が散乱している。気に入ったものを採集すればよい。登山道脇にもあちこちに小さな噴気口がある。噴気が見える場合もあるし見えない場合もある。高温の噴気なので火傷をしないよう注意が必要である。噴気口回りには新鮮な硫黄の結晶群がある(写真3, 4)。地形図中に期した2つの赤丸の間で硫黄が採取できる。

この硫黄は砕け、割れやすい。採集した硫黄を壊さないで持ち帰るためには、プラスチックケース、ティッシュペーパー、綿が必須である。時間の余裕があれば、茶臼岳の頂上を目指そう。登山道はよく整備されており、快適な山行を味わえるであろう。朝早く出立するならば、地形図中の左上に位置している三斗小屋温泉に行ってみよう。数時間の登山をしなければたどり着けない秘湯の1つである。露天風呂があり、一汗かいて下山するののも一興であろう。

ここを探査する場合は、地形図だけではなく、必ず市販されている登山マップも持参すべきである。



地図 国土地理院地形図 2万5千分の1 地形図「那須岳」
探査日 2009年7月
参考文献
(1)「鉱物ウォーキングガイド」松原聡、丸善、2005年。



頂上部の拡大図

鉾山跡写真



写真1 茶臼岳の西側斜面。登山道から頂上を見る。あちこちに噴煙が見える。手前には部分部分に黄色い硫黄が見える。簡単に採取できる。



写真2 牛ヶ首近くの噴煙口。噴出音も鳴り響いている。真ん中より下に左右に登山道が写っている。



写真3 真ん中の穴が噴気口である。火傷に注意。回りには一杯硫黄がこびり付いている

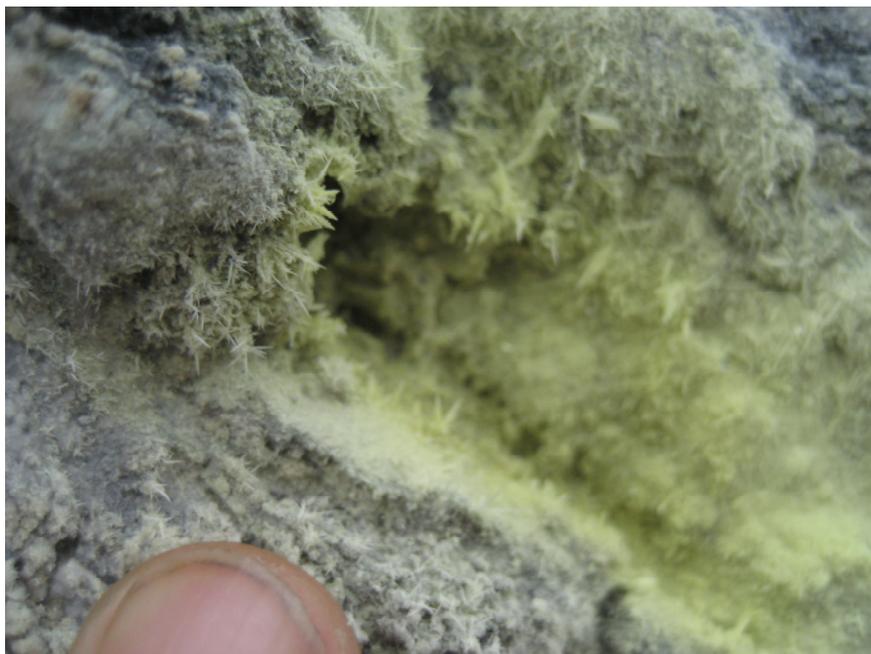


写真4 真ん中に噴気口がある。硫黄の針状結晶が噴気口回りに成長している

採集鉱物写真



硫黄 2 個

追記録

地形図中で、「明礬沢」という沢に目が止まった。登山口の駐車場の少し右上である。「明礬」という名を冠しているのは、この沢に鉱石の1つである明礬石があるからに違いないと推測した。その内に、是非とも探査することにした。

ところで、奥日光の金精峠の北西の近くに「温泉ヶ岳」という山がある。名前からして、頂上付近に源泉があるのでは？ と思い、登ってみた。が、何の温泉の気配も見つけられなかった。何故、「温泉」を冠したのだろうか？ と疑問に思っていた。最近、ようやくわかった。奥日光の湯本は温泉地である。温泉街の北側に沼と一緒に広い源泉地帯がある。この源泉の背後に、山がある。温泉の源泉が見つかったことへの感謝の気持ちで、この山を「温泉ヶ岳」と名付けた。という案内説明板が源泉に掲示してあった。そうだったのか。